



mnividens

[オムニヴィデンス]



中田横穴の3次元計測（福島県いわき市）

1969年に丘陵の裾を削る県道拡幅工事で発見された、崖に穴を掘って墓とした横穴墓です。多数の副葬品から6世紀後半の造営と推定されています。墓室には赤色と白色で連続する三角文を描いた装飾があり、その重要性から国史跡に指定されました。総合学術博物館では貴重な文化財の保全のため、2021年12月に光学式非接触ハイエンド3Dスキャナーを用いて詳細な3次元計測をおこないました。左写真は外気の影響を遮断する保護施設です。
(藤澤敦・鹿納晴尚)

企画展特別鼎談「仙台周辺での鉱物・化石採集」

地底の森ミュージアムとの共催企画展「石っていろいろ!～仙台のミュージアムの“石”が大集合～」が2022年1月21日から3月13日まで開催されました。総合学術博物館では展示だけでなく協力各館での石材調査をはじめ「石図鑑」の監修や体験イベントのための鉱物・化石採集でも活動しました。企画展をきっかけに鉱物や化石を身近で採集してみたいと考えている皆さまのご参考になることを願い、採集に従事した地質・古生物学出身で技術職員の根本潤 (N)、事務職員で鉱物に目覚めた齋藤拓 (S)、史学教員である小川知幸 (O) の鼎談 (座談会) をお届けします。

竜ノ口層の化石

O わたしたちの鉱物・化石採集では11月から3回にわたって (図1) のように仙台周辺の各地に出かけました。最初は泉区西田中にある焼河原 (やけがわら)、それから根白石の堂所 (どうどころ)、そして黒川郡大和町の宮床に行きました。Sさんは以前にもNさんと広瀬川の澱橋 (よどみばし) に行かれたんでしたよね。
S そうです。Nさん、仙台市内の化石の産地と焼河原と澱橋の貝化石産地の層準は、だいたい同じなんですか？



1. 鉱物・化石の採集場所

N 竜ノ口層っていう意味では、その中で化石産出層準といえはいくつあるといえはあんだけど、そこまで細分して考えることもないかな。

S じゃあ、堂所は？

N それは全然別だから。

S 層自体が古いんですか。本当はそういう予備知識とか地質学的な知識をもって行ってたらよかったんでしょうけど。

N 化石採集はそうだよ。層準を追うっていうのは、化石を見つけようと思っている人たちが気にしなければならない一番のことだね。

O 最初に焼河原を選んだのはNさんのご提案だったんですか。(写真2)

N いちばんメジャーな、すぐ採れてたくさん採れて、クリーニングするっていうのも使いやすい試料だからね。

S 仙台市内の化石とか鉱物とかまとめる『気分は宝さがし！せんだい地学ハイキング』って本あるじゃないですか。あれにも焼河原で採集している写真が載ってますね。

O そのくらいスタンダードな場所ってことですね。澱橋も焼河原も同じ貝化石が採取できると。センダイヌノメハマグリとか。(写真3)

S あとラスボス、中ボス、どっちなんだろう、タカハシホタテとか。ハマグリ系は、数はすごく採れるけど崩れやすくて完全なものが少ないですよ。

N でも、仙台でしか採れない種類だからね。仙台は本当に身近で化石が採れるんだよね。世界で一番化石に近い町だと思うよ。仙台駅東口のヨドバシカメラの敷地からも竜ノ口層のクジラ化石が見つかる。その標本も収蔵室にあるよ。

焼河原の大きな発掘痕

S これとかも掘った跡なんかが、その後ならされた感じになっているんですね。あと、これなんかもオーバーハングになっているところがそうなのかな、と。(矢印)

N ああ、これはそう。ここは化石が出るからみんなが掘ってこうなってる。

O 自然に形成されたわけじゃなかったんだ。そんなに深く掘り起こされたってことですか。

N タカハシホタテが出やすい。

S 鉱物でも追っかけていくと、「マニア坑道」って言われるのがいつの間にか出来たりしますから。

N 鉱物の場合と違うよね。見つけ方が。あっちは脈みたいなのをたどるのかな。



2. 焼河原の竜ノ口層露頭で貝化石の発掘



3. センダイヌノメハマグリなどの化石の露出

S そうですね。場所にもよりますし。脈的なものなんっていうのは、今はもうほとんど見つけられないから結局はズリ（鉱山で発生する捨石の集積所）探しっていうのがメインになっちゃうんで。

N どっちかって言うと化石の方は層準を追う作業だから。見つけたときは。でも鉱物っていうのはそうじゃない。本当にピンポイントで、岩体が同じだからあるってわけじゃない。

O そうすると、化石だとこうやって一定の層のところを集中的に掘ることになるんですね。

堂所のホタテ貝・宮床の玉髓

O 堂所も竜ノ口層ですか？（写真4）

N ここは古いね。竜ノ口層は鮮新世なんだけど、こっちは中新世になるね。古い時代だね。

S 堂所は、大堤層か青麻（あおそ）層ってちょっと迷うところでしたけど、青麻層じゃないかっていう結論になりましたね。

O ここはどういう化石が採れるんですか。

N ホタテ貝の仲間が密集して出てくる。名産地だね。

S 逆にホタテしか出ないようでしたね。

O ああ、なんか層をなしてホタテが顔を出してましたよね。

S 竜ノ口層と違って砂岩質だったから、本当に（タガネが）刺さなくて。

N 鮮新世と中新世の差ぐらいの硬さの違いがある。（笑）

O 宮床では、ごろっと崩れ落ちている玉髓とかを拾えました。（写真5）

S そうですね。本当に、逆に手ごろなサイズのもののがごろごろでしたね。ただ、途中で雨が降っちゃったりして採集としては消

化不良に終わってしまいました。

川崎鉱山跡の黄鉄鉱

O ここは川崎鉱山「跡」ということで稼働はしてないんですね。しかし何だかみようにズリが新しく見えるっていう。（写真6）

S 溶け出した鉄さびがタール状に被覆しちゃうんで、石どうしがくっついて崩れにくくなっている部分が多いんです。

N 本気ならスコップを持っていくんでしょ。

S スコップよりもツルハシのほうがいいですね。下に落ちているやつになると小さめでしたけど、ズリの中に入っているやつだと大きい塊で入っちゃってると思うので、スコップなんかだと、ガツンって。

N なっちゃうんだ。

S だからツルハシなんかでやるんだったら崩していきながらってところかな。

O ここはおもに黄銅鉱が。

S いえ、黄銅鉱は中ボス以上です。圧倒的に黄鉄鉱（パイライト）です。（写真7）このときは黄銅鉱だって言えるものは一個しかありませんでした。しかも薄い皮膜のやつで。ここはあまり時間掛けずにやっちゃいましたからね。寒かったし。

O さすがに身体が冷えてきて。

S ○○さんがさっそく「石っているいろいろ」展を見に行っ、石ガチャをやったらいいんです。そうしたら川崎鉱山の黄鉄鉱で、「ちっちゃいやつしか付いてなかった」って言われて。

N これならまあ、だいぶいい方だって。

高温型石英

O 青葉の森緑地に戻ってきて。これはなんでこんなふう屋根っぽくなるんですか。（写真8）

S それはもう柔らかさの違いですよ。

N これは岩が硬いんだよ。だから出っ張って。だけどこっちはヤワいので。

O 滝の水流れでどんどんV字型に削られてきたってことですか。で、ここの雨風とかに下の層もえぐられてきた。

N 何年か何百年かして、こういうふうに着てくるんだよね。この（手前に見える）大きな礫岩が。

O そうか、これは上の層から落ちてきたものなんですね。

S 写真上はV字だけど実際には水平のところ滝が後退してる形でしょうからね。

N でも硬いからなかなか割れないよね。

S どれだけの時間をかけてこれだけ後退していったのかっていう。

O ああ、何百万年。

S はい。上からの土砂なんか天然のヤスリ状態でどんどん削っていくわけです。

N（高温型石英を採取したときの写真を見て）ああ、これは鉱物採集って言うても層準を追って見つけるタイプじゃないの？

S そうですね。白沢層だっという話ですけど、はっきりとはしていないみたいですね。三滝層まで行ってしまうと高温型石英はいっさい出ない。そもそも高温型石英は供給源っていうか、それ自体はわかってないらしいですからね。軽石なんか含まれていたのが雨風なんかで流されてきて溜まったっていう。でも、それが大きくて多いから産地として言われてるだけであって、高温型石英ってわりと至るところにポロポロ落ちてるんですよ。

N この小豆大のサイズのがっていうことね。「郷六のダイヤ」って呼ばれてますね。小さいものなら竜ノ口層なんかでもいくらでも入ってるんだよ。

N この小豆大のサイズのがっていうことね。「郷六のダイヤ」って呼ばれてますね。小さいものなら竜ノ口層なんかでもいくらでも入ってるんだよ。

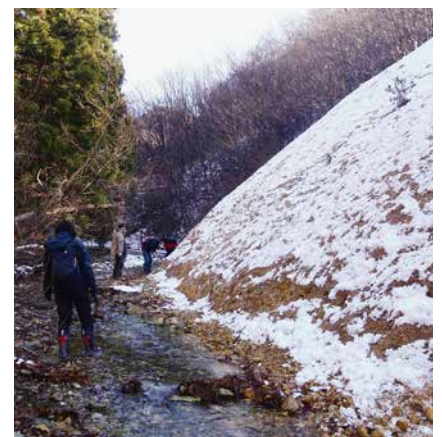
N この小豆大のサイズのがっていうことね。「郷六のダイヤ」って呼ばれてますね。小さいものなら竜ノ口層なんかでもいくらでも入ってるんだよ。



4. 堂所の河原で青麻層の露頭を探す



5. 宮床で地面に大量に落ちていた玉髓



6. 川崎鉱山跡のズリ

○ なぜか白沢層とされているところには少し、
N でかいのが。
○ 集中して採れるところがあるんですね。

金を掘っていた？

○ これが第3回目の旧刈田鉱山というので、稼働やめてからずいぶん経って、戦後まで動いていたんですか。
S ここは福岡鉱山と刈田鉱山の二つがあって、福岡鉱山はだいぶ古くからやっていたところだったんです。もとは銅関係なんかを採っていたところに石膏が出てきて、そっちに切り替えたところらしいんです。で、刈田鉱山の方は昭和30年代後半から稼働した、日本国内でも随一に新しいような鉱山なんですけれども、わずか十数年で閉山しちゃったところでした。今回は、そのズリではなく、石膏の細脈から少し採取した形です。
○ あかがね(赤銅)橋ってのがあって、銅を採ってたのかな、って。
S 下流域の脇に進んだところに、しろがね沢ってのがあって、白金沢。そっちは金なんですよ。
○ 金も採れたのかな。
S なくはないですね。もしかしら日本全国いろんなところで採れていた可能性はありますね。自分の地元にも、どこにでもあるような感じで三角山みたいなやつってあるじゃないですか、平地のところに突然ポコってなっているような山とかの。そういうところは何かの形で花崗岩的なものが残っている場合には金が出る可能性が高いと○
○ 先生もおっしゃってました。

雪花石膏(アラバスター)

○ なんだかここ(石膏の細脈)は、ごろつとしたアラバスターが露出しているという、そんな場所でした。(写真9)
S たぶん、あの粘土脈があったところをていねいに掘ればいくらでも出てくると思えますよ。
○ なかなか見た目が美しいですね。
S 石膏は手近な鉱物採取っていう意味では、行けば採れないことはないですからね。ぜひ宮城の本場たる宮崎鉱山なんかも行きたいところですけども。
○ それはどこにあるんですか。
S 加美町の。たぶん日本全国的に見ても有名な石膏鉱山ですね(閉山)。石膏鉱山って島根県を除けばおもに東日本なんです。なので、うちらにとっては石膏って山形にもあるよね、宮城でも採れるよね、福島なんかけっこういっぱいあるよねってなるけども、西日本に住んでる人からすれば、
○ 珍しい、ってことですね。
S はい、珍しいというか、石膏ってそんなに身近にあるものなんだっていうふうには受け取られると思うんです。
材木岩(柱状節理)
○ 最後に、白石の材木岩です。(写真10)
N けっこうこれは迫力あるよね。この辺は石とかね、すごいよね。
S どうしても遠近感的なものとかがなくなっちゃうからあれだけ、ふつうに一本一本はひと抱え以上ですからね。あと、青葉区大倉の定義山(じょうぎさん)。あそこにも材木岩があるんですよ。
○ そこも材木岩って呼び方をしている？

S はい。らしいです。ただ、そこに行くために降りる道がだいぶ藪に覆われているらしくて。ちょっと見てみたいところですね。でも材木岩そのものって柱状節理はそんなに珍しくないですからね。
○ あちこちにありますが。縦だったり横だったり斜めだったりしますが。
S 山形との県境近く、川崎にある柱状節理のところは表面がうまい具合に削れちゃってて、天然のウォータースライダーみたいになってるところがあるんですよ。あれはあれで触れるところに柱状節理の露頭があるので一見の価値ありかなって思います。

まとめ：「石」のおもしろさ

○ そろそろ予定時間も過ぎてしまったので、まとめに入りたいと思います。
S 石のおもしろさって、ふつうの石だと表面は光沢がないじゃないですか。そんなに綺麗っぽくも見えないけども、ちゃんと切って研磨すると、こういうようなツヤツヤの飾り石とかにも使えるようなものに、ほとんどがなるんですよ。なので、ただの石じゃん、っていうふうな形だけでないのも、また石のおもしろさなのかなって思うんですけど。
○ カットしたり研磨したりすると、そういう興味が湧くことになるんですか。
S だから瑪瑙なんか同じですよ。あれは自然のままでも持っているよりは、やっぱりカットしてその面に対してのところが綺麗なところを見ないとっていうふうな。あれは本当に人工的に手を掛けるっていうよりは、エンハンスト(美しさを引きだすため加熱や含浸処理されたもの)っていう扱いにはできるものですからね。
N 初心者の人には、水晶とか。



7. ズリから採れた黄鉄鉱



8. 青葉の森緑地「化石の森」 手前の礫岩は上の地層から落下



9. 雪花石膏

S 手軽に採れる水晶産地が、宮城にはないんですよ。

O なかなか難しいそうですね。県内だと。

S 鉱物マニアの人たちにとっては宮城県も石なし県って言っちゃうくらいですから。

O それは水晶を指して？

S いえ、鉱物全体を指して。めぼしい鉱物がない県って意味で。いや、そんなことないんだけどな、って。

O その辺が今回の採集のきっかけではあったわけですよね。

S そうですね。こういう話題をつうじて、採る採らないは別としても身近なところに自然のいろんなものが産出して見ることができただって少しでも感じてもらえるんだったら、いいですよ。

N いや、むしろ逆の入り方をしてもらったほうがいいと思うんだよね。化石を、今日はじゃ

あ採りに行くよ、行きましょって、いきなり化石が採れる現場に行くと、はいこれが化石ですっていうよりも、まずは地層を見てから、

S ああ、こういうところにこういうのがあるんだよっていうふうな。

N で、入っていかないと、何だろう、

S ああ、モノだけで満足しちゃいますよね。

N そう。そこにたんに、何であるのかも何も考えないで、あるから採ろうみたいになっちゃう。鉱物もそれだよ。そういう岩体とか、その土地の成り立ちがあつてこそ、そこにそういう鉱物が産出するっていうのがあるから、それを一緒に知るといふところは大事だと思う。

S そうですね。市民参加型でもしもうこういうふうな採集体験会をやるんだしたら、最初の一時間は座学でしょうね。

N 化石産地にしろ鉱物産地にしろ、もともと地質なりを調査してて、ああ、ここにこんなものがあるねっていうのがわかってそういう産地とか鉱山になっていった。最初に発見するような気持ちをもってるといいのかな、と思う。

S そうですね。でも鉱物にしても化石採集にしてもわりと成果があつてなんぼつてなっちゃうんですよね。逆に成果がなければなんでここでは採れなかったんだろうって考えるのも面白いんですけどね。

O やっぱ自分なりの発見があると楽しいですよ。本日はありがとうございました。

(構成／写真＝小川知幸)

※前号で予告した旧生物学教室での展示設営の記事は諸事情により次号に掲載します。



10. 白石市七ヶ宿の材木岩（柱状節理）



根本潤



齋藤拓



小川知幸

「石っていろいろ！～仙台のミュージアムの“石”大集合！～」

総合学術博物館と地底の森ミュージアムの共催で企画展「石っていろいろ！～仙台のミュージアムの“石”大集合！～」を、地底の森ミュージアム企画展示室を会場として開催しました。仙台にある各種ミュージアムの所蔵する珍しい化石や鉱物、また石器・板碑・石臼などをあつめ、その石材の正体と産地も知ることのできる、仙台周辺の「石」の総合展として大変ご好評をいただきました。

(写真提供＝地底の森ミュージアム)



共催企画展ポスター



地底の森ミュージアムでの展示室のようす

蔵王の魅力再発見フォーラム講演・公開討論会

蔵王町をジオの観点から紹介して地域の魅力を考える公開討論会「蔵王の魅力再発見フォーラム」が、12月25日に蔵王町ございんホールでおこなわれました。基調講演では山形大学の伴雅雄氏が蔵王火山・青麻山の成り立ちを解説し、当館の高嶋礼詩が蔵王町の過去 2000 万年

間の大地の歴史を紹介しました。宮城学院女子大学の宮原育子氏はジオパークと地域振興との関係について話題を提供し、パネルディスカッションでは活発な討論がおこなわれました。

蔵王町は「蔵王ジオパーク構想」を立ち上げ、日本ジオパークの認定をめざして

います。今回、町内外から 150 名をこえる多くの方々が参加し、ジオパーク構想への関心の高さを実感しました。このフォーラムは地元の方々にとって地域のジオの魅力発見とジオパーク構想支援のきっかけになったのではないのでしょうか。

(文／写真＝高嶋礼詩)



パネルディスカッションのようす



基調講演での高嶋教授

東北地方で発見された中生代の大型脊椎動物化石の展示パネル

日本海が誕生するよりはるか昔、中生代の東北地方・太平洋沿岸地域はアジア大陸の東の縁に位置していたことがわかっています。これらの地域には当時の陸域や浅海域で形成された地層が点々と分布していて、恐竜や魚竜をはじめとした大型脊椎動物の化石が産出しています。

本展示パネルでは、これまで東北地方から発掘された 12 体の中生代の大型脊椎動物化石とその産地を紹介しています。このうち東北大学所蔵の化石はウタツギヨリュウとイナイリュウの 2 体となります。ウタツギヨリュウは世界最古級の魚竜化石で、展示室の標本は完模式標本に指定されています。ウタツギヨリュウ化石は福井県立恐竜博物館の 2021 年特別展「海竜恐竜時代の海の猛者たち」に出展していましたが、2022 年 1 月中旬に当館に戻ってきて、ふたたび展示しています。もう一体のイナイリュウは、1939 年に小学校教員の鈴木喜三郎氏により発見された日本

唯一の偽竜類の化石です。残念ながら化石本体は戦時中に行方不明となったままです。Yabe & Shikama (1948) にこの化石の記載とスケッチが掲載されており、学術的にも貴重な標本であることが証明されています。最近では登米町のイナイリュウの発見地点に看板が設置され、再注目されています。このほか岩手県の久慈層群

からは恐竜化石が近年続々と産出しており、発掘が続けられています。

東北地方の東縁部にはこれらの産地以外にも中生代の堆積岩類が分布しており、今後も大型脊椎動物化石の発見が期待されます。

(文／写真＝高嶋礼詩)



展示パネルとウタツギヨリュウ完模式標本

高倉山層産のペルム紀頭足類が寄贈されました

このたび福島県いわき市在住の化石収集家・鈴木千里さんから、主として1960年代から1970年代に、いわき市四倉町の高倉山東方に分布するペルム系高倉山層から採集された頭足類化石およそ120点が東北大学総合学術博物館に寄贈されました。

高倉山地域は、北上山地の南半部を占める南部北上帯とよばれる地質区の延長にあたるもので、その南西端に位置しています。この地域にペルム紀化石を産する泥岩主体の地層があることは古くから

知られていて、これまでたくさんの化石が記載・報告されてきましたが、その詳細な年代については意見がわかれていました。高倉山層の頭足類化石をもっとも多数産出した産地は現在いわき市の天然記念物指定をうけており、多数の追加標本を得ることは困難となっています。

鈴木さんの収集された頭足類標本には多様な種類が含まれており、高倉山層の年代やこの時期の南部北上帯の頭足類化石群を知るための貴重な研究資料です。

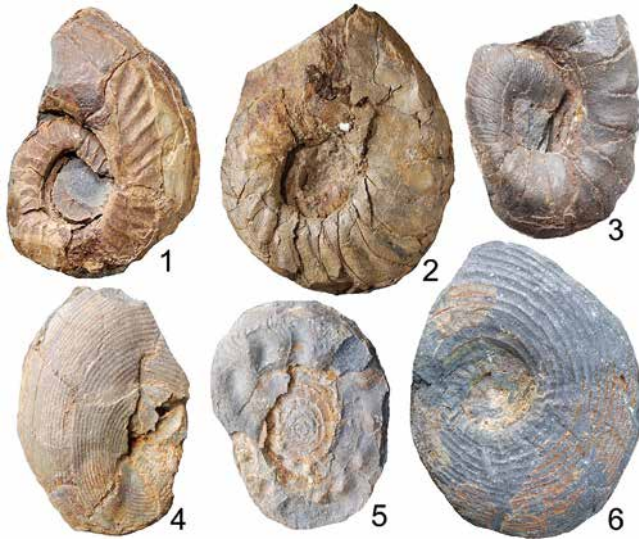
この鈴木標本を総合学術博物館協力研究員の永広昌之博士が検討した結果、120点の標本のうち、保存の良くない、あるいは未成熟な個体で同定が困難なものをのぞく、計71個体が同定され、同標本には、4属8種のオウムガイ類（1新種を含む）と8属8種および属種未定の1亜科のアンモノイドが含まれることがわかりました。

これらの属種構成から、高倉山層の頭足類の年代は中期ペルム紀の中期（ワーディアン期）であることが確実となりました。高倉山層の群集は、南部北上帯のワーディアン期の頭足類群集としてはもっとも多様なものです。この研究成果は2022年3月発行予定の東北大学総合学術博物館紀要（Bulletin of the Tohoku University Museum）第21号に掲載されます。

1-3. オウムガイ類。

4-6. アンモノイド類。

1. *Pleuronautilus chisatoi* Ehiro (新種),
2. *Pleuronautilus cf. gregarius* (Miller),
3. *Endolobus?* sp., 4. *Agathiceras* sp.,
5. *Neopopanoceras cf. scrobiculatum* (Gemmellaro), 6. *Roadoceras cf. roadense* (Böse).



寄贈された高倉山層産頭足類の一部

黒柳助教が2020年度地球環境史学会貢献賞を受賞

総合学術博物館の黒柳あずみ助教が研究テーマ「有孔虫記録を基にした海洋環境の精密推定」により、地球環境史学会の2020年度地球環境史学会貢献賞を受賞しました。

地球環境史学会は、地球環境変動にかかわるさまざまな研究分野の研究者・学生から構成されています。地球環境史学会貢献賞は、地球環境史の解明に対して顕著な貢献をした研究者に授与されるものです。

第7回地球環境史学会年会は2021年10月23日にオンラインで開催され、年

会前の地球環境史学会総会において学会賞・奨励賞・PEPS論文賞とともに貢献賞のオンラインでの表彰式がおこなわれました。

表彰式では、各受賞者が村山雅史・地球環境史学会長より表彰されたのち、それぞれ短いコメントを述べました。

昨年度と本年度は新型コロナウイルスのためオンラインでの開催でしたが、通常の年会は対面形式で開催され、2018年11月には、東北大学で開催されたこともあり、そのさいには2日間の会期中に100名近くが参加しました。



貢献賞の賞状と有孔虫3D模型

東北大学総合学術博物館
Information



附属図書館理科大学コレクション・西洋古典の整備に協力

東北帝国大学の仙台での歴史は明治44年(1911)の理科大学(College of Science)開設から始まりました。今年は大正11年(1922)の本学法文学部設置より100年目ということもあり、東北大学が文・理を併せた総合大学としての体制を整えて100年目の記念の年に当たります。

開設当時からの蔵書を保管する附属図書館北青葉山分館の依頼により、一昨年からは総合学術博物館の協力のもと、それらを精選して理科大学コレクション(仮称)として整備し、いよいよ今年より保存環境の整った附属図書館本館に移管することとな

りました。

同コレクションには分類学の父と呼ばれるカール・リンネ、その「使徒」の一人ツンベルク、地質・古生物学のキュヴィエ、アガシ、数学・天文学のガリレオ、エドモンド・ハリー、ラグランジュ、ラプラス、また、物理ではウィリアム・ギルバートなどを初めとする1600年以後の古典的な研究文献が集められています。

附属図書館本館の西洋古典(1850年以前の洋古刊本)区分の設定と併せて保存と利用の環境が整うことで、今後の利活用にあます期待が高まります。



西洋古典を収めた書架(附属図書館)

理学部自然史標本館

●ご利用案内

総合学術博物館の常設展示は理学部自然史標本館にて行っています。下記は理学部自然史標本館のご利用案内です。

●入館料

大人150円/小・中学生80円
(団体は大人120円、小・中学生60円)
幼児・乳児は無料、団体は20名以上です。

●開館時間

午前10時から午後4時まで

●休館日

毎週月曜日*1、
お盆時期の数日*2、年末年始*2、
電気設備の点検日(例年8月最終日曜日)*2

*1 月曜日が祝日の場合は開館、祝日明けの日が休館となります。

*2 日にちが確定次第ホームページにてお知らせします。



●交通手段

■仙台市地下鉄
仙台市地下鉄東西線「青葉山駅」で下車(仙台駅より乗車時間9分)。「青葉山駅」北1出口より徒歩3分。

■仙台市観光シールバス「ふるふる仙台」
JR仙台駅西口バスプールより乗車。「理学部自然史標本館前」で下車。所要約30分。

■自家用車
東北自動車道仙台宮城インターチェンジより仙台市街方面へ向かい、青葉山トンネルを仙台城方面に出て、右折2回、大橋経由。駐車場あり。

総合学術博物館のホームページもご覧ください



東北大学総合学術博物館のホームページ
<http://www.museum.tohoku.ac.jp/>

東北大学
総合学術博物館
THE TOHOKU UNIVERSITY MUSEUM

〒980-8578
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
tel/fax. 022-795-6767
©The Tohoku University Museum

Omnividens

[オムニヴィデンス]

Omnividensはラテン語で、英語のall-seeingに相当し、「普く万物を観察する、見通す」の意味をもっています。